

様式第1号（第11条関係）

平成30年 8月20日

井原市議会議長 西田久志 殿

第2班 班長 宮地俊則

市民の声を聴く会実施報告書

開催日時	平成30年 7月18日（水） 19時30分～21時00分
開催場所	井原地区 「 井原公民館 」
出席議員	宮地俊則、西村慎次郎、簗戸利昭、三宅文雄、多賀信祥
参加者数	12名
主な意見 要望等	意見交換会で出された意見については、別紙のとおり。
備 考	

様式第1号（第11条関係）

平成30年8月24日

井原市議会議長 西田久志 殿

第1班 班長 惣台己吉

市民の声を聴く会実施報告書

開催日時	平成30年7月24日（火） 19時00分～20時30分
開催場所	大江地区 「大江公民館」
出席議員	惣台己吉 大滝文則 妹尾文彦 細羽敏彦 上野安是
参加者数	30名
主な意見 要望等	意見交換会で出された意見については、別紙のとおり。
備考	

第8回 「市民の声を聴く会」意見交換会実施報告書

地区名： 大江 地区

テーマ『 このたびの豪雨災害について

』

開催日： 平成30年7月24日

グループ 番号	番号	出された意見	振分先委員会						テーマの小分類
			総文	市福	建水	予決	議運	広聴	
1	1	身体障がい者の避難場所をもう少し考えてほしい。特に、車いすの場合トイレに行けない。		○					避難所管理
2	2	(折口住宅)車いすの方や高齢者に優しい避難所の設置。洋式トイレ、簡易ベッドは必要ではないか。		○					避難所管理
2	3	避難場所は適正か。		○					避難所管理
3	4	体育館の下にトイレがある。		○					避難所管理
3	5	障がい者の方もベッドがないと。		○					避難所管理
3	6	岡田小学校は教室が避難場所になっていて、段ボールベッド、クーラーがある。		○					避難所管理
3	7	公民館の西側がつかった。避難場所がつかっては危ない。		○					避難所管理
3	8	折口団地の裏が崩れた。小学校に避難しても障がい者用のトイレがないので公民館へ避難した。		○					避難所管理
3	9	大江小学校が避難場所であると逆に危ない。体育館の裏とプール横で土砂崩れが起こった。		○					避難所管理
4	10	土砂・水害時の避難場所としては、避難の場所が問題である。		○					避難所管理
4	11	小学校のプール側は崩れる予感がして、市には報告していたが、そのまま。教頭先生には報告。		○					避難所管理
5	12	避難所での指示・命令系統が明確になっていない。		○					避難所管理
5	13	避難所(大江小学校)へは市の職員は2人。どこまで地域と連携が取れていたか。		○					避難所管理
5	14	避難所に簡易ベッドが欲しい。		○					避難所管理
5	15	コミュニティ公民館で、避難所として機能しうるものがあるのか調査する必要がある。		○					避難所管理
5	16	現小学校が避難所としての役割を果たせないのなら、建て替えも視野に入れるべきでは。	○	○					避難所管理

グループ 番号	番号	出された意見	振分先委員会						テーマの小分類
			総文	市福	建水	予決	議運	広聴	
3	17	高屋川の大江分のところの土手の上のほうがえぐられた。土手の上のほうをコンクリートにしてほしい。			○				河川管理
3	18	高屋川が神辺方面が狭くなっている。			○				河川管理
3	19	新川はつかる。			○				河川管理
3	20	もっと頻繁に浚渫。			○				河川管理
4	21	高屋川、新川の土手の上部が土。			○				河川管理
1	22	8日朝、市役所に行って被害状況を報告に行ったが、玄関に受付もなく、行く場所がわからず帰った。せめて、対策本部の受付ぐらいはしてはどうか。	○	○					行政・災害対策本部
5	23	「お知らせくん」からの情報が全戸に伝わっているのか。中にはスイッチを切っている家もあるのではないか。	○	○					お知らせくん・防災
2	24	地すべり地域へ、定期的に状況報告をお願いします。		○	○				災害情報
4	25	井原放送で地図表示。		○					災害情報
5	26	避難所に情報がなかなか入ってこない。		○					災害情報
2	27	国・県・市・地域・市民との連絡、情報伝達体制のありかた。		○					災害情報・行政と自治体の連携
4	28	通行止めのところには、誘導員をつけてほしい。		○	○				災害対応
3	29	自主防災組織はあるが、あまり機能していない。		○					自主防災組織
3	30	防災に関する組織づくりをしていかなければならないが、組織づくりのマニュアルはあるのか。地域の人と連携できるような仕組み。		○					自主防災組織
5	31	今後の災害に備えての訓練をしっかりと実施していく必要がある。(できるだけ、小規模単位＝単位自治会、向こう三軒両隣で可能か。)		○					自主防災組織
2	32	市の対策協議会と連動する地域の住民との連携ができる地域対策協議会が必要ではないか。情報伝達体制の確立・防災組織の一元化等々のシステムの構築		○					自主防災組織・災害情報・行政と自治体の連携
2	33	停電・断水対策・食料の確保のシステム。		○	○				被災者援助
2	34	みなし仮設住宅などの整理をしてはどうか。		○					被災者援助

様式第1号（第11条関係）

平成30年8月18日

井原市議会議長 西田久志 殿

第3班 班長 佐藤 豊

市民の声を聴く会実施報告書

開催日時	平成30年7月20日（金） 19時30分～21時00分
開催場所	木之子地区 「木之子公民館」
出席議員	佐藤 豊 西田久志 坊野公治 荒木謙二 柳原英子
参加者数	47名
主な意見 要望等	意見交換会で出された意見については、別紙のとおり。
備 考	

第8回「市民の声を聴く会」意見交換会実施報告書

地区名： 木之子 地区

テーマ『 公共交通について

開催日： 平成30年7月20日

グループ 番号	番号	出された意見	振分先委員会						テーマの小分類
			総文	市福	建水	予決	議運	広聴	
1	1	井原鉄道の乗車賃が高い。	○						井原鉄道の運賃
1	2	井原鉄道の乗車賃が高い。(高校生の利用は多いが一般客の利用増加を促進)	○						井原鉄道の運賃
1	3	井原鉄道が倉敷への直通便があると利用客の増加になる。	○						井原鉄道の乗り換え
1	4	井原駅の昇降設備が必要では？(ベビーカーの乗り入れに困った)	○						井原鉄道の施設設備
1	5	鉄道便が少ない。利用料金が高い。	○						井原鉄道の本数、運賃
1	6	井原鉄道の廃止を。バスの途中乗車を認めては。	○						井原鉄道の廃止、バスの途中乗車
1	7	バスセンターに駐車場がなく利用しにくい。	○						バスセンターの駐車場
1	8	交通弱者にはバスが必要である。	○						バスの必要性
1	9	運転できる人は関係ないが、交通弱者はバスは必要。	○						バスの必要性
1	10	門田・県主地区をバスが通っているのは見るが、惣谷地区では見かけない。路線増を。	○						バスの路線
1	11	木之子町のバス路線がわからない。県道に面した路線は運行してほしい。	○						バスの路線
1	12	惣谷路線を増やしてほしい。	○						バスの路線
1	13	同じ方向ばかりなので利用しにくい。	○						路線について
1	14	バス停を増やしお年寄りが利用しやすくする。	○						バス停留所の増加
1	15	バスの運転手さんも大変なので人手不足も見られる。	○						バス運転手の人材不足
1	16	空車率が高い。もったいない。	○						乗車率
1	17	車がないと生きていけない。お年寄りがかわいそう。	○						車社会
1	18	自動車に乗れているので御縁をいただいていない。	○						車社会
1	19	利用方法・安くなる方法が一般の人には知られていない。知ってほしい。	○						情報の周知
1	20	乗り合いバスの回数、時間がわからない。	○						乗り合いタクシーの情報

グループ 番号	番号	出された意見	振分先委員会						テーマの小分類
			総文	市福	建水	予決	議運	広聴	
1	21	乗り合いタクシーを週1日2回。時間待ちの時間が少し長い。	○						乗り合いタクシーの待ち時間
1	22	乗り合いタクシーを増やしたらどうか。	○						乗り合いタクシーの増加
1	23	予約制にする。	○						予約方式
2	24	高齢者の免許返納により公共交通への依存が大きくなる。小回りが利いて荷物等を運んでもらえるようにする。停留時間を短くする。	○						運用について
2	25	利用目的に合った時間やコースを検討していただきたい。	○						運用について
2	26	デマンド型タクシーは伸び悩みと思われる。フリーで利用できる施策を。タクシーチケット補助とか。	○						乗り合いタクシーの運用
2	27	バスよりタクシーでの乗合がいい。	○						乗り合いタクシー
2	28	公共交通への補助は収支換算してどこまで補助するのか。	○						公共交通への補助
2	29	採算が取れないルートは、なくなるのか。	○						運営について
2	30	ルート変更を。(県主から通学路と通って円地へ)	○						バスの路線
2	31	バス通りまでの距離。バスの通る場所。	○						バスの路線
2	32	あいあいバスは行きたいところにすぐに行けない。	○						バスの路線
2	33	学童であいあいバスを使用して出かけたが、時間と乗り継ぎが悪く利用しにくい。	○						バスの路線
2	34	病院に行っても帰りに乗るバスの時間まで長時間待たないと便がない。	○						バスの本数
2	35	バスはタラップがあり乗り降りが大変。	○						バスの乗降車が不便
2	36	学童での利用は、大型バスを用意してほしい。	○						バスの大きさ
2	37	あいあいバスの小型化。地区を細かく廻る。	○						バスの小型化
2	38	井原鉄道はホームが高く階段が大変。	○						井原鉄道の施設設備
3	39	乗り合いタクシーの周知の徹底を。歩いて行ける路線がない。	○						乗り合いタクシーの情報
3	40	タクシー若しくは、比較的若い方による乗り合い運行を。	○						乗り合いタクシーの運用
3	41	予約タクシーを増やしてほしい。	○						乗り合いタクシーの増加

グループ 番号	番号	出された意見	振分先委員会						テーマの小分類
			総文	市福	建水	予決	議運	広聴	
3	42	井原鉄道の直行便の延長。(岡山～福山～井原 山手線化)	○						井原鉄道の乗り換え
3	43	井原鉄道は階段があり利用しにくい。	○						井原鉄道の施設設備
3	44	JRと比較して、井原線は割高である。福山から帰便の時間を遅くしては。	○						井原鉄道の運賃、終電時間の見直し
3	45	現状の公共交通の説明がほしい。(将来に向けての方針、乗り合いタクシー)	○						公共交通の現状の説明
3	46	自転車の載せれるバスがあれば便利。	○						バスの運用
3	47	あいあいバスの1日の回数が少ない。	○						バスの本数
3	48	あいあいバス小型化。	○						バスの小型化
3	49	あいあいの増便。(特に土日)	○						バスの本数
3	50	足元の低い小さな車で増便を。	○						バスの本数、小型化
3	51	買い物ルート、通院ルートの確立を。	○						路線について
3	52	木之子～井原駅直行便。井原駅をハブとして用途別便を。	○						路線について
3	53	笠岡への通学手段が少ない(特に土日)生徒へアンケートを取って意見の集約を。	○						通学手段、アンケートの実施
3	54	現状歩いて乗る公共交通がない。	○						公共交通がない
3	55	道路の整備を。崩落場所の早期開通を。			○				道路整備
4	56	小さな道路まで進入できる公共交通を。	○						小型の公共交通
4	57	バスの小型化を。	○						バスの小型化
4	58	通学利用に便利な便を。	○						通学手段
4	59	便数が少ない。	○						本数
4	60	バスのエリアを小さくし、コンパクトに。	○						バスのエリアを小さく
4	61	公共交通の利用促進をするために周知の徹底を。みんなの認識が低い。	○						情報の周知
4	62	公共交通の利用方法がわからない。	○						情報の周知
4	63	井原鉄道との連携を。	○						公共交通間の連携

グループ 番号	番号	出された意見	振分先委員会						テーマの小分類
			総文	市福	建水	予決	議運	広聴	
4	64	タクシーチケットの配布の方が、莫大な予算をつけなくてもいいのでは。	○						タクシーチケット制度
4	65	まだ運転免許を持っているが、90歳になったら返納し、公共交通を利用する。	○						運転免許の返納
5	66	バス待合所に屋根の設置を。	○						バスの待合所の改善
5	67	デマンドタクシーの充実を。(助成金等)利用権発行を。周知徹底を。	○						乗り合いタクシーの充実
5	68	乗合タクシーはだれが利用できるのか。	○						情報の周知
5	69	利用券の発行を。	○						利用券の発行
5	70	普通車サイズの自宅まで送迎可能な公共交通を。	○						新たな公共交通
5	71	広報が足りないのでは。	○						情報の周知
5	72	下原は公共交通の空白地帯である。対処してほしい。	○						公共交通がない
5	73	補助金が足りないのでは。	○						補助金について
5	74	子どもたちが活用マナーを知る。	○						情報の周知

第8回 「市民の声を聴く会」意見交換会実施報告書

地区名： 木之子 地区

テーマ『 防災について

開催日： 平成30年7月20日

グループ 番号	番号	出された意見	振分先委員会						テーマの小分類
			総文	市福	建水	予決	議運	広聴	
1	1	ハザードマップの周知徹底を。		○					ハザードマップの周知
1	2	避難所の毛布が少なかった。市が指示をもっと出してきてよい。		○					災害用備品の整備
1	3	木之子町は水害土砂災害等で逃げる場所がない。高台に建物建設を。		○	○				避難所について
1	4	避難場所が体育館と思ひ込み、家の2階の方が安全と思ひ避難しなかった。		○					避難所について
1	5	避難勧告、避難指示の意味が理解できない人がいる。どの時点で避難すべきか。		○					情報の伝達について
1	6	避難勧告、避難指示の違いを市民が理解していない。市民の危機感不足。		○					情報の伝達について
1	7	避難指示が出た場合、広報車を回してほしい。		○					情報の伝達について
1	8	避難勧告が放送されたが、本気になれなかった。大勢の人が避難できる場所が数力所必要である。小学校だけでなく、中学校も。		○					情報の伝達、避難所について
1	9	「お知らせくん」の役割が大きい。もっと繰り返して放送を。危機感をもって。		○					お知らせくんについて
1	10	「お知らせくん」の避難指示は早くてよかったが、聞いていない人も多かったので対策が必要。		○					お知らせくんについて
1	11	稲木川の整備を。			○				河川管理
1	12	稲木川の整備を。(川底の砂利をきれいに取ってほしい)			○				河川管理
1	13	夜中の大雨だったが、稲木川の水の流れがよかったみたい。			○				河川管理
1	14	惣谷自主防災会組織はあるが、木之子地区全体の組織があるのか。連携が必要。		○					組織づくり
1	15	避難時点で誰がリーダーで誰が指示するのか決める必要がある。組織づくり。		○					組織づくり
1	16	森脇地区は何もなくてよかった。		○					災害なし
1	17	矢掛ボランティアセンターのシステムや発信の仕方がわかりやすい。参考に。		○					防災体制について
1	18	炊き出し等のタイミング。(時期)		○					避難所の運営

グループ 番号	番号	出された意見	振分先委員会						テーマの小分類
			総文	市福	建水	予決	議運	広聴	
1	19	ボランティアや寄付金等発信がわかりにくい。		○					情報の伝達について
2	20	地域防災組織の確立。		○					組織づくり
2	21	木之子の防災について考える会の設置。		○					組織づくり
2	22	避難指示はすぐに避難しなければならないことの徹底。		○					情報の伝達について
2	23	避難指示より命令の方が避難したかもしれない。		○					情報の伝達について
2	24	避難勧告、避難指示の意味。		○					情報の伝達について
2	25	「お知らせくん」の随時の放送で早目に避難された人もいた。		○					お知らせくんについて
2	26	近隣とのコミュニケーションは大切。		○					連携
2	27	小田川も大変だが、支流、溝からの水量が増えて不安。ウォーターバック。			○				河川管理
2	28	決壊は想定外。		○	○				河川管理
2	29	錦橋～青木被服(おがみ橋)までの歩道の設置。			○				道路整備
2	30	避難場所が小学校3階では足、腰の悪い人は利用しにくい。		○					避難所について
2	31	要介護者への対応。		○					避難者への対応
2	32	私有地災害は公共工事とならないが、耕作放棄地の対応を願う。		○	○				耕作放棄地の被災の対応
2	33	ハザードマップ。水位は何cmか。土嚢が少なかった。		○	○				ハザードマップ、災害用品の整備
3	34	防災予算の拡充を。	○	○	○				予算
3	35	水害を含めた地域防災計画の確立。		○					防災計画
3	36	地域防災組織の確立。		○					組織づくり
3	37	災害時の避難組織の必要性。		○					組織づくり
3	38	避難場所を知らない。小・中学校は安全か。		○					避難所について
3	39	避難場所の設定等早期決定を。		○					避難所について
3	40	農免道路より南側(西郷地区)の避難場所は。		○					避難所について

グループ 番号	番号	出された意見	振分先委員会						テーマの小分類
			総文	市福	建水	予決	議運	広聴	
3	41	この災害を教訓に各地区における訓練等の強化。夜であったこともあり、車での移動のため道路の幅員等の標識がわからないので標識灯等整備が必要。		○	○				防災訓練、標識整備
3	42	この災害を教訓に避難の重要さを家庭・学校でも教えていかなければならない。	○	○					防災教育
3	43	避難時の連携の重要性。		○					連携
3	44	隣近所の方との話し合いの必要性。		○					連携
3	45	今後の井原市の水害対策は。		○					水害対策
3	46	ため池等の調査の実施を。			○				ため池
3	47	土砂崩れ対策の実施を。			○				土砂崩れ対策
3	48	河川の堤防等の点検の実施はどのような計画か。			○				河川管理
3	49	小田川の川底、雑木の整理の早期実施を。			○				河川管理
3	50	小田川堤を削って道路にしたことで増水し、土手を越して被害が出た。先人の作った防水堤を軽視したために被害が発生した。			○				河川管理
3	51	防災メールで通行止め連絡がくるが、どこなのかわからない。グーグルで調べたが？		○	○				通行止めの情報
3	52	危機管理係を課に昇格を。	○						行政組織
3	53	行政を超えた援助協定を。	○	○					協定
3	54	ダムを放流の周知が行き届かなかった。住民の危機意識が低いことが被害の拡大となった。		○					情報の伝達について
4	55	避難勧告、避難指示の違いを市民が理解していない。徹底を。		○					情報の伝達について
4	56	小さな地域から防災組織づくりを。近隣住民の確認方法の徹底。		○					組織づくり
4	57	木之子防災組織の早期確立を。避難所でのケアの重要性を。		○					組織づくり、避難所の運営
4	58	小田川の堰堤をもっと高くしてほしい。			○				河川管理
4	59	水門の鍵の持ち主がわからなく壊したが、時間がかかった。鍵の場所の周知を。			○				水門管理
5	60	下原地区の小田川の浚渫工事をしたので流れが緩やかで治水ができた。			○				河川管理

グループ 番号	番号	出された意見	振分先委員会						テーマの小分類
			総文	市福	建水	予決	議運	広聴	
5	61	山崩れの後の修繕を早期に。(土止め等)			○				土砂崩れ対策
5	62	避難指示ほか情報が遅い。避難意識の啓発不足(住民の意思)		○					情報の伝達について
5	63	詳しい災害情報がほしい。		○					情報の伝達について
5	64	災害対策本部がわからない。		○					防災体制について
5	65	指示・指揮統一を。		○					防災体制について
5	66	下原地区は孤立している。2カ所崩れ、地区内の高いところに行き、3軒は、公民館で過ごした。要望書(26軒)出しているが、小田川より高い所に避難所の設置を。		○					避難所について

様式第1号（第11条関係）

平成30年8月24日

井原市議会議長 西田久志 殿

第1班 班長 惣台己吉

市民の声を聴く会実施報告書

開催日時	平成30年8月2日（木） 19時00分～20時30分
開催場所	荏原地区 「荏原公民館」
出席議員	惣台己吉 大滝文則 妹尾文彦 細羽敏彦 上野安是
参加者数	30名
主な意見 要望等	意見交換会で出された意見については、別紙のとおり。
備考	

第8回 「市民の声を聴く会」意見交換会実施報告書

地区名： 荏原 地区

テーマ『 このたびの豪雨災害について

開催日： 平成30年8月2日

グループ 番号	番号	出された意見	振分先委員会						テーマの小分類
			総文	市福	建水	予決	議運	広聴	
	1	避難場所の体育館のカギを誰が持つか。学校任せは如何なものか。公民館へカギを置いたらどうか。	○	○					避難所管理
	2	体育館などのかぎの管理はだれか。	○	○					避難所管理
	3	大雨と地震の避難場所は、別々に検討し決めたらどうか。		○					避難所管理
	4	避難場所は大雨と地震で区別する。		○					避難所管理
	5	自治会単位であらかじめ避難場所を決めておいても良いのではないか。		○					避難所管理
	6	避難場所の対応は実にお粗末であった。マットも毛布も全く不足していた。ずぶ濡れの状態の避難者は着替えもない。寒い時期であれば、もっと大きな問題になったに違いない。		○					避難所管理
	7	避難所へ備品(毛布・マット・タオル)など備蓄を。		○					避難所管理
	8	荏原小学校体育館にマットが不足のことでした。今後どうなりますか。		○					避難所管理
	9	避難所として体育館があるのか。水・毛布・その他の避難所グッズの備蓄を。		○					避難所管理
	10	新設を依頼している公民館は避難場所としても対応できる建物。設備が必要。	○	○					避難所管理
	11	小学校と体育館を2階部分でつなげることはできないか。	○	○					避難所管理
	12	今回みずきでは、2回孤立した。備蓄食にて食事は対応できたが、数日孤立する場合や避難者が増加した場合、備蓄食では持ちこたえることができない。救援物資等については、荏原小学校に取りに行くことができるのか？		○					避難所管理
	13	避難場所の開放を早めに		○					避難所管理
	14	避難所を荏原小学校とふれあいセンターに開設した方がよかったのではないか。		○					避難所管理
	15	避難場所が小学校で大丈夫なのか。		○					避難所管理
	16	小学校の校舎の二階、三階が避難場所であれば。		○					避難所管理
	17	公民館を避難場所。		○					避難所管理

グループ 番号	番号	出された意見	振分先委員会						テーマの小分類
			総文	市福	建水	予決	議運	広聴	
	18	ふれあいセンターなど、災害時には勝手に開けても良い制度をつくっては。		○					避難所管理
	19	避難場所の見直し。		○					避難所管理
	20	避難場所の選定、小学校の体育館？		○					避難所管理
	21	公民館で災害対応のグッズの整備。		○					避難所管理
	22	お知らせくんの設置。(みずきへの)	○	○					お知らせくん
	23	お知らせくんから避難指示が出たそうですが、聞く時間がなかった。	○	○					お知らせくん
	24	お知らせくんが役に立たない。	○	○					お知らせくん
	25	避難判断はお知らせくん、井原放送、メールで判断した。	○	○					お知らせくん
	26	停電・断水したら、井原放送・お知らせくんは機能せず情報が入らない。北川地区の屋外拡声器から状況を知ることができた。	○	○					お知らせくん
	27	お知らせくんは今回避難に役立ったので、未設置世帯は早急に設置した方がよい。	○	○					お知らせくん
	28	今回の災害は小田川と下谷川の合流地点で水が処理しきれなくなり水位が上昇したことが最大の要因。荏原地区は市内では最も小田川の下流に位置することから必然的に水量は最大となり、危険度も同時に増している。今回の水害は起きるべくして起きた。必ず小田川と下谷川の合流地点付近の浚渫工事を毎年確実に実施してもらいたい。			○				河川管理
	29	小田川内等、河川にある土砂を撤去してほしい。			○				河川管理
	30	小田川の浚渫工事を計画的に実施してもらいたい。			○				河川管理
	31	小田川の定期的な浚渫が必要。			○				河川管理
	32	小田川内等河川にある土を撤去してほしい。			○				河川管理
	33	是非とも同合流地域周辺の中州の木を伐採してほしい。水が滞留して流れない。			○				河川管理
	34	国道486号から小田川、下谷川の接続部分の水位状況がわかるように木の伐採を常時行うこと。			○				河川管理
	35	小田川の立木の除去。			○				河川管理

グループ 番号	番号	出された意見	振分先委員会						テーマの小分類
			総文	市福	建水	予決	議運	広聴	
	36	下谷川の雑木等の整備。			○				河川管理
	37	小田川の立木の取り除き。			○				河川管理
	38	小田川の改修。(木を切ってくれ)			○				河川管理
	39	同合流地点の導流堤の形状が悪い。ここをさらに東に延長すると流れが滞留して流れない。			○				河川管理
	40	小田川と下谷川の接点となる導流堤の形状が悪い。			○				河川管理
	41	小田川と下谷川の合流地点の改修工事。導流堤の新設。			○				河川管理
	42	小田川と下谷川との合流地点大幅改良。			○				河川管理
	43	小田川と下谷川の合流地点の改修。			○				河川管理
	44	豪雨時の水門の管理法方法。			○				水門管理
	45	水門管理。行政でマニュアルをつくる。(地元ですと何かとトラブルになる。)			○				水門管理
	46	下谷川(吉山宅)水門の改良。(軽く操作)			○				水門管理
	47	水門の管理方法、状況把握。			○				水門管理
	48	豪雨時の水門の管理法方法を周知してもらいたい。			○				水門管理
	49	水門を改良し、安全で軽く操作できるようにしてほしい。			○				水門管理
	50	避難準備・勧告・指示、それぞれの対応を理解できていない人が30%いる。		○					災害意識
	51	情報を共有できる体制を構築するべきだ。		○					災害情報
	52	スマホ等を利用しない家庭への情報提供方法を考えてもらいたい。		○					災害情報
	53	避難場所にはテレビを設置してほしい。情報が入らないので不安であった。		○					災害情報
	54	災害状況の伝達、伝達情報の共有。		○					災害情報
	55	情報提供が早くて助かった。		○					災害情報
	56	現在の時点、状況などの把握。		○					災害情報
	57	情報ツールの整理、整備。	○	○					災害情報

グループ 番号	番号	出された意見	振分先委員会						テーマの小分類
			総文	市福	建水	予決	議運	広聴	
	58	停電・断水時の情報ツールの整備、防災無線。	○	○					災害情報
	59	体育館にテレビがなかった。井原放送の線だけでも設置できれば。		○					災害情報
	60	井原放送で情報を得た。ローカルテレビのありがたさを感じた。		○					災害情報
	61	他の連絡場所との連携体制をとってほしい。		○					他地域との連携
	62	木之子下原の人が避難したいけど？結果的には荏原に避難できるルートがあり、広域的な情報交換が必要ではないか。		○					他地区との連携
	63	自治連は、昨年防災訓練を実施したものの防災体制が全く機能していない。		○					自主防災組織
	64	自主防災組織のメンバーが誰なのかよくわからない。		○					自主防災組織
	65	自主防災組織から各自治会長への連絡網が出来ていなかった。		○					自主防災組織
	66	高齢者や介護を必要とする方への対応が出来ていなかった。また、自主防災組織からの指示もなかった。		○					自主防災組織
	67	一人住まいや高齢者等の避難所への移動に時間がかかった。誰が誰を見守るか、自治会単位で改めて確認し合う必要があるのではないか。		○					自主防災組織
	68	地域の方々の災害意識が高いうちに勉強会を開催してほしい。		○					自主防災組織
	69	地域で1人暮らしのお年寄りや、家族はいるが家族だけでは緊急時移動することが難しい要介護者など、地域で把握してくださっているとありがたいです。		○					自主防災組織
	70	防災組織。		○					自主防災組織
	71	水防災害にかかる組織からの連絡体制。		○					自主防災組織
	72	災害発生時の組織図。		○					自主防災組織
	73	災害発生時における状況把握の方法は今のままでよいのか。		○					自主防災組織
	74	「災害時等避難行動要支援」の仕組みが機能したか。		○					自主防災組織
	75	消防団としては立場上警察等の指示に従い交通整理などに対処したが、消防団の役割はなにか、自主防災会との連絡などもっと地元と密接に連絡したかったという忸怩たる思いがある。		○					消防団
	76	交通整理を消防はしたが、それだけでよかったか。		○					消防団
	77	消防団の役割は？		○					消防団

グループ 番号	番号	出された意見	振分先委員会						テーマの小分類
			総文	市福	建水	予決	議運	広聴	
	78	消防団員で市の職員のものには地元に来られない。		○					消防団
	79	国道をいつまで通行止めにするかよいかかわからなかった。		○					消防団
	80	災害後には消防団には余裕があった。市が大変な時には手伝いが出来る。		○					消防団
	81	自治会から消防への要請をしても良いのでは。		○					消防団
	82	矢掛・小田は消防がごみを回収、溝の泥上げ。		○					消防団
	83	災害ごみの回収の対応が早くて助かった。		○					ゴミ
	84	みずきの前の道、水路の豪雨対策をしてほしい。			○				道路管理
	85	荏原小学校まで抜ける道をつくって下さって助かりました。			○				道路管理
	86	キョーワ横の土手を道にする。			○				道路管理
	87	キョーワ横の道の底上げ。			○				道路管理
	88	道路や用水路の整備。			○				道路管理・用水路管理
	89	民地の土砂崩れの対応はどうなるのか？		○	○				土砂崩れ
	90	土砂災害が民地の場合、行政の役割は。→個人ではどうにもならない。		○	○				土砂崩れ
	91	消石灰は各自が市役所へ取りに行くのではなく、配るか、公民館へおいてほしかった。		○					被災者援助
	92	消石灰でない消毒剤を検討してほしい。		○					被災者援助
	93	今回のような非常時には相談窓口を公民館に設置したほうが良いのではないか。わざわざ市役所まで行けない事態に陥っていた。		○					被災者援助
	94	浸水住宅かさ上げ補助要綱。現在もあり？			○				被災者援助
	95	高齢者・障がい者等の対応。		○					避難援助
	96	一人暮らし、老人の避難施設への移動体制。		○					避難援助
	97	一人住まい世帯の安否確認。		○					避難援助
	98	乳幼児のみならず、障害のある方についても避難しにくいのでは。		○					避難援助

グループ 番号	番号	出された意見	振分先委員会						テーマの小分類
			総文	市福	建水	予決	議運	広聴	
	99	避難場所は体育館だけで大丈夫か。体育館までの道路が水没してしまい、行くにも行けなかった。		○					避難経路
	100	神代地区などは体育館へ行くこと自体が困難。		○					避難経路
	101	みずきから避難場所までの道路は水没してしまった。道路のかさ上げが出来ないか。		○					避難経路
	102	道路に外灯を増設してもらいたい場所がある。		○	○				避難経路
	103	道路外灯の増設。		○	○				避難経路
	104	道路に外灯が少ないので、施設周辺や避難所の小学校までも全く道がわからない状況がありました。外灯の数を増やしていただけないか？		○	○				避難経路
	105	避難経路の見える化。		○					避難経路
	106	避難場所にくる道が浸かって避難する車が水没した。		○					避難経路
	107	避難所が小学校になっていたが、小学校まで行けなかった人も。もっと合理的に！		○					避難経路
	108	荏原小学校まで抜ける道を設置していただけないか。		○	○				避難経路
	109	避難するときに道路が水没し、避難所に行くのに大変苦労した。		○					避難経路
	110	小学校へ行くことが困難。何か所か避難する場所があれば。		○					避難経路
	111	小学校区で一つ救命用のボートを準備してもらえないか。		○					防災
	112	みずきも避難場所として利用できることを地元の人に知ってほしい。		○					防災
	113	井原市の防災マップはあるが、もっとわかりやすい荏原地区の防災マップを作成するべきだ。		○					防災
	114	避難所が冠水した場合、逃げ遅れた方の救助ボートが必要となります。救出(救命)ボートのようなものがあれば、救助要請があったときに冠水しても動けるのではないか。		○					防災
	115	みずき、南団地の連携があってよかった。日ごろの付き合い。		○					防災
	116	荏原地区に近い所の小田川のようなすがわかるカメラ。		○					防災
	117	カメラを下谷川と合流点に設置。		○					防災

グループ 番号	番号	出された意見	振分先委員会						テーマの小分類
			総文	市福	建水	予決	議運	広聴	
	118	下谷川との合流地点の様子がわかるように好感度のライブカメラを設置し、井原放送での放映を追加してほしい。		○					防災
	119	小田川と下谷川の合流地点の水位状態がわかるように高感度ライブカメラを設置する。		○					防災
	120	ライブカメラ。		○					防災
	121	ライブカメラ。現状は井原放送設置。市の助成が必要。		○					防災
	122	ライブカメラを増やしてほしい。		○					防災
	123	各自治会で防災マップの確認をしたら。		○					防災
	124	荏原地区のマップ。		○					防災
	125	ハザードマップの見直し。		○					防災
	126	安否確認、情報の集約。		○					防災
	127	防災に対する教育が出来ていなかった。		○					防災意識
	128	今回の災害水位がわかるように電柱等に表示して忘れないようにする。		○					防災意識
	129	各地域によって避難指示、合図、放送などが異なりますが、理解できる又は伝わる手段の方法が必要ではないでしょうか。		○					防災意識
	130	避難勧告発令後避難した方約17%、しなかった方60%、もっと危機感をもつように。		○					防災意識
	131	災害水位がわかるように標章を設置。		○					防災意識
	132	乳幼児を連れての避難はまわりへの迷惑を考え、避難しにくかった。		○					防災意識
	133	今回の水位の記録をしておいてください。		○					防災意識
	134	防災に対する教育。		○					防災意識
	135	行政は今回の災害で迅速に対応したと判断しているのか自己評価は？		○					行政
	136	民地同士の被害で大規模なものは行政として助言が必要ではないか。補助金のようなものはないか。		○					行政
	137	7/18日に荏原自治連がまとめ、報告した被害情報について期限付きで回答願いたい。		○					行政

様式第1号（第11条関係）

30年 8月20日

井原市議会議長 西田久志 殿

第2班 班長 宮地俊則

市民の声を聴く会実施報告書

開催日時	平成30年 8月 2日（木） 19時00分～20時30分
開催場所	野上地区 「野上公民館」
出席議員	宮地俊則、西村慎次郎、簗戸利昭、三宅文雄、多賀信祥
参加者数	12名
主な意見 要望等	意見交換会で出された意見については、別紙のとおり。
備考	

様式第1号（第11条関係）

平成30年8月18日

井原市議会議長 西田久志 殿

第3班 班長 佐藤 豊

市民の声を聴く会実施報告書

開催日時	平成30年7月19日（木） 19時00分～20時40分
開催場所	青野地区 「JA岡山西井原北支店青野店舗2階」
出席議員	佐藤 豊 西田久志 坊野公治 荒木謙二 柳原英子
参加者数	18名
主な意見 要望等	意見交換会で出された意見については、別紙のとおり。
備 考	

様式第1号（第11条関係）

平成30年8月20日

井原市議会議長 西田 久志 殿

第4班 班長 森本 典夫

市民の声を聴く会実施報告書

開催日時	平成30年7月23日（月） 19時00分～20時50分
開催場所	西江原地区 「西江原公民館」
出席議員	森本典夫、柳井一徳、三輪順治、山下憲雄
参加者数	29名
主な意見 要望等	意見交換会で出された意見については、別紙のとおり。
備考	テーマは「元気な西江原をつくろう」でしたが、当日「西江原地区の防災・減災について」に変更してすすまれました。

様式第1号（第11条関係）

平成30年8月24日

井原市議会議長 西田久志 殿

第1班 班長 惣台己吉

市民の声を聴く会実施報告書

開催日時	平成30年7月26日（木） 19時00分～20時30分
開催場所	芳井地区 「 芳井生涯学習センター 」
出席議員	惣台己吉 大滝文則 妹尾文彦 細羽敏彦 上野安是
参加者数	20名
主な意見 要望等	意見交換会で出された意見については、別紙のとおり。
備考	

第8回「市民の声を聴く会」意見交換会実施報告書

地区名： 芳井 地区

テーマ『 地域防災について

開催日： 平成30年7月26日

グループ 番号	番号	出された意見	振分先委員会						テーマの小分類
			総文	市福	建水	予決	議運	広聴	
1	1	避難場所の再考が必要か。水害の場合、川そばの避難所はかえって危ない様子となる。土砂災害、風害、地震災害で違う。		○					避難所管理
1	2	避難所に全員が避難できるのか。		○					避難所管理
3	3	避難場所の安全性は？		○					避難所管理
3	4	地域の避難場所が問題がある。		○					避難所管理
3	5	避難場所の設定の見直し。		○					避難所管理
4	6	明治・共和、近くのコミュニティーを開放してほしい。		○					避難所管理
1	7	西吉井コミュニティーハウスに避難しても安全か。		○					避難所管理
2	8	コミュニティーハウスを避難場所に行っている意味がない。また、地区によっては冷暖房設備を取り外しているところもある。安心・安全なまちづくりの基本を整備してほしい。		○					避難所管理
3	9	各地区のコミュニティー等に非常用持ち出し品を置いてほしい。正確な情報を収集するためにはテレビが必要。		○					避難所管理
4	10	コミュニティー単位で、水・毛布・マット非常食など備蓄してほしい。		○					避難所管理
3	11	避難先には、毛布等の配置をしてほしい→行政は毛布が不足で困っている。		○					避難所管理
4	12	保温マット・毛布。		○					避難所管理
3	13	避難場所に毛布・水・保存食を配備すべき→共和、県道が寸断された。		○					避難所管理
3	14	避難場所への物資の配送はどうなっているか。		○					避難所管理
3	15	避難所に車いすを設置すること。		○					避難所管理
3	16	避難場所に備品がない。		○					避難所管理
5	17	福祉避難場所について。		○					避難所管理
3	18	福祉避難所は芳井にあるか？		○					避難所管理

グループ 番号	番号	出された意見	振分先委員会						テーマの小分類
			総文	市福	建水	予決	議運	広聴	
	19	障がい者・高齢者等の福祉避難所が必要ではないか？		○					避難所管理
3	20	弱者の避難の仕方は。		○					避難所管理
3	21	弱者の方の受け入れ避難場所は適切であるか。		○					避難所管理
4	22	農協、学習センター、川に近いから不安。		○					避難所管理
	23	避難所の設定に伴う、準備設備は？個別避難所ごとの想定される人数、年齢、体調別の水、食料品、衣類、寝具、間仕切り、冷暖房、…特に電気・ガス、喪失時のためのカセットコンロやガスボンベ～湯が沸かせる。それに簡易トイレは？風呂対応は？乳幼児のミルクや寝たきりの状態の方の、紙おむつ。病人の薬、治療、検診システムを地域医師会、医療機関と構築するには？現状で想定出来得るかぎりの行政政策の策定。		○					避難所管理・医療
3	24	体育館に情報源のインターネット設備を引いておく必要がある。(パソコンは二の次)		○					避難所管理・災害情報
3	25	避難場所(体育館)に情報源となるテレビ(配線のみでも)設置すべき。		○					避難所管理・災害情報
3	26	各地区(公民館・コミュニティ)にテレビを配置してほしい。		○					避難所管理・災害情報
3	27	災害時に市に連絡するが自治会長にも情報を連絡すべき。		○					災害情報・行政と自治体の連携
1	28	お知らせくんを電気がなくても動くように。	○						お知らせくん・防災
2	29	お知らせくん未設置の世代への対応。転入した世帯にお知らせくんを設置していない家庭がある。非常事態のときにどう知らせるのか。企業にもお知らせくんの設置を。	○						お知らせくん・防災
2	30	避難勧告の発令でもっとお知らせくんで数分間隔で呼びかけるべきでは？話し方も事務的で本当に避難すべきなのか伝わってこない。指示になる前に何度も放送すべき。		○					お知らせくん・防災
2	31	「お知らせくん」について。今回の豪雨災害で避難指示が出たが「お知らせくん」のお知らせが少なかったような気がします。県民性として災害に疎いのでしっかり呼びかけを行ってほしい。		○					お知らせくん・防災
3	32	お知らせくん、体育館の声が小さいので大きく。(避難時に)		○					お知らせくん・防災
4	33	お知らせくんの回数を多く。昼間も。		○					お知らせくん・防災
	34	井原市からお知らせくんや井原放送、メール配信等での情報伝達だけではカバーできないところがあるのではないかな？		○					お知らせくん・防災

グループ 番号	番号	出された意見	振分先委員会						テーマの小分類
			総文	市福	建水	予決	議運	広聴	
3	35	防災無線の設備を利用したお知らせくんの放送開始。		○					お知らせくん・防災・防災無線
3	36	旧芳井町で使用していた防災無線の再使用はできないのか。お知らせくんでは家の中でしかわからない。緊急時だけでも使用はできないのか。		○					防災無線
4	37	川の砂を掘り下げてもら。木を切ってもら。			○				河川管理
4	38	川の砂ほり、木を取ってほしい。(川幅の確保)川の整地。			○				河川管理
	39	井原市はもとより、矢掛町・倉敷市も連携し河川の改修浚渫工事を、県・国に働き掛ける。			○				河川管理
1	40	早く川の土砂を取ってほしい。			○				河川管理
1	41	昭和池は堤防が修理できていない。			○				池管理
4	42	コミュニティーから市に聞かないと情報とか必要なものの答えがもらえない。		○					行政と自治会との連携
3	43	地区会長への避難所設定の連絡等はないのか。消防団等への市よりの連絡はどうなっているのか。		○					行政と自治会との連携・消防
1	44	避難準備・避難勧告・避難指示は市内に一斉に発せられるが、自主防災組織が最小単位での活動ができる単位と考える。		○					自主防災組織
1	45	頼るところは自主防災組織。		○					自主防災組織
1	46	年に一回は防災訓練をする。すれば一人100円助成するとか。		○					自主防災組織
1	47	自主防災組織を近所の人で作る。		○					自主防災組織
1	48	自主防災組織を作るために必要なことを指導する。		○					自主防災組織
1	49	簡単な防災訓練から始めたらどうか。年一回程度。		○					自主防災組織
3	50	自主防災組織は自主でなく行政で半強制的にすべきでないとできない。		○					自主防災組織
3	51	自主防災のマニュアルはあるのか。		○					自主防災組織
3	52	市の防災訓練より地区単位、自治会単位の小単位でないと実が上がらない。		○					自主防災組織
3	53	市内に自主防災組織は何地区あるか。機能しているのか。報告をお願いします。		○					自主防災組織

グループ 番号	番号	出された意見	振分先委員会						テーマの小分類
			総文	市福	建水	予決	議運	広聴	
	54	現状で想定できうる限りの行政政策の策定の基礎となる各家庭別の、家族構成、体調、病状、緊急連絡先は、民生委員、警察等と連携し、個人情報保護の原則のもとに、市行政が主体となり、各自治会の行動連絡組織を作成する必要がある。		○					自主防災組織・行政と自治会の連携
3	55	自主防災の補助金の上限が50万円で2割負担、しかも1回要求したら3年間できない。10万円程度は負担なしで3年間の期限なしで。		○					自主防災組織・補助金
4	56	市の補助金のあり方。少し使っても3年間出ない。		○					自主防災組織・補助金
3	57	避難所に対しての住民の安否確認について自治会？		○					住民の安否確認
3	58	消防団に最低チェーンソーぐらいは配布すべき。(共和)		○					消防団
2	59	消防団を利用して、より細かい単位の地区で避難指示を出していく組織づくりを行ってほしい。		○					消防団
4	60	消防が老人を避難させてくれた。		○					消防団
4	61	個人情報で障がい者名簿等、カギをつけていることが？		○					情報管理
4	62	避難指示(23:38)の遅れ。避難しない住民への対策。		○					避難対策
2	63	被災した近隣市町村の方へ一時的な住宅提供をしてはどうか。空室の市営住宅、特に芳井ハイツの活用をしてもよいのでは。			○				被災者援助
3	64	炊き出し費用はでないか。		○					被災者援助
3	65	石灰はなぜ1袋なのか。		○					被災者援助
3	66	石灰をもらうのに自治会長印がいるのはなぜ。		○					被災者援助
3	67	芳井町は65歳以上の一人暮らしが何人いるのか。		○					避難援助
3	68	弱者の避難の仕方は。		○					避難援助
3	69	緊急時避難場所の連絡で芳井生涯学習センターと連絡を聞いて高齢の人は避難できない。		○					避難援助
3	70	一人暮らしの避難で指示が出ているのに避難場所に行かないという者をどうするか。		○					避難援助
3	71	年寄りで人の手がなければ避難できぬ。		○					避難援助
1	72	どういう災害のとき、どこへ避難すればよいのか。		○					防災

グループ 番号	番号	出された意見	振分先委員会						テーマの小分類
			総文	市福	建水	予決	議運	広聴	
1	73	天神山池などだれが危険であると確認しているのか。そういうシステムはあるのか。		○	○				防災
1	74	危険個所を確認するシステムを作る必要があるのでは。		○	○				防災
1	75	井原へ行く道がふさがれると芳井地区は孤立する。		○	○				防災
2	76	どこに避難すればいいのかわからないという方がいます。安全マップを作成しても全く活用されていない。学習センター、JA、芳井体育館以外にコミュニティーハウス、学校も避難場所になっているが、地区民に伝わりきれていない。		○					防災
3	77	防災マップの見直し。		○					防災
3	78	土砂災害(土砂崩れ)が起きやすい地区、警戒地区を各自治会にわかるようにしてほしい。		○					防災
3	79	各地区の河川の水位によって避難指示を検討してよいのではないか。		○					防災
3	80	避難体制はどうなっているのか。		○					防災
4	81	勧告が出てから避難所はどういう順で開いているのか。		○					防災
4	82	台風(秋)までに川、山で二次災害が起きる心配がある。		○	○				防災
4	83	職員の防災訓練をしてくれ、今回をふまえて！		○					防災
5	84	これからの豪雨災害の対策・計画などの方向性を教えてほしい。決壊時、常設の排水ポンプの設置など。		○	○				防災
	85	防災減災対応含め井原市の危機管理体制が甘いのではないか？		○					防災
	86	異常事態発生時の、各耕地自治会レベルの状況判断の、具体的、基礎的数字の設定～20mm/時、80mmの累計降雨量時、の避難場所、(大正池マップでは、芳井体育館と西吉井コミュニティーハウスは未記入で、また20～50ミリ未満の浸水深にある。しかし、7日20時頃の市担当の指示は、芳井体育館への指示を出している。然も「不安なら、避難してください。また、何かあったら連絡ください。」…要するに、各自で判断すること。との市の判断) 念のため、天神山池マップには、芳井体育館は記載されている。50cm未満の浸水の芳井中学校は天神山マップには未記入であるのに、大正池マップには記入されている。…マップ作製会社に丸投げで、市の責任部署のチェックミスでは、今回の洪水では、幸いにも被害は軽微であったが、今後の対応は？		○					防災

様式第1号（第11条関係）

平成30年 8月20日

井原市議会議長 西田久志 殿

第2班 班長 宮地俊則

市民の声を聴く会実施報告書

開催日時	平成30年 8月 1日（水） 19時00分～20時30分
開催場所	美星地区 「 美星公民館 」
出席議員	宮地俊則、西村慎次郎、簗戸利昭、三宅文雄、多賀信祥
参加者数	76名
主な意見 要望等	意見交換会で出された意見については、別紙のとおり。
備 考	

第8回「市民の声を聴く会」意見交換会実施報告書

地区名： 美星 地区

テーマ『 住みたい、来てみたい美星町づくり

』

開催日： 平成30年8月1日

グループ 番号	番号	出された意見	振分先委員会						テーマの小分類
			総文	市福	建水	予決	議運	広聴	
	1	新規就農で人を呼び込む。(グループ対策案)			○				新規就農、移住定住
	2	新規就農者の住む場所の確保。			○				新規就農、移住定住
	3	農業をしたい人に来てもらう。			○				新規就農、農業振興
	4	美星の特産品で所得が良いピオーネ栽培を促進する。			○				新規就農、農業振興
	5	就農者の農地不足。			○				新規就農、農業振興
	6	農作物のブランド化。			○				新規就農、農業振興
	7	新たなブランド、特産品を作る。			○				新規就農、農業振興
	8	葡萄以外の特産品の開発。			○				新規就農、農業振興
	9	青空市。(若い就農者の出品を増やす、出品者が高齢化している)			○				新規就農、農業振興
	10	農業の基礎づくり。			○				新規就農、農業振興
	11	農業振興。			○				農業振興
	12	農業を中心とした働く場所の確保。			○				農業振興
	13	農地保全(草刈り)を引き受けてくれるシステムづくり。			○				農業振興
	14	雑草地、荒廃地を整備することが収入となる必要がある。			○				農業振興
	15	雑草が金になればよい。			○				農業振興
	16	羊を放牧して雑草対策にし羊肉の特産品とする。			○				農業振興
	17	観光。(青空市)			○				観光
	18	美星をPRするためのイベントの開催。			○				観光、移住定住
	19	豊かな自然をPR。(星、空気、景色などの良いところ)			○				観光、移住定住
	20	美星に移住すると特典を付ける。			○				移住定住

グループ 番号	番号	出された意見	振分先委員会						テーマの小分類
			総文	市福	建水	予決	議運	広聴	
	21	移住の不安を取り除くために体験をしやすくする。(美星の日常のイベントなど)			○				移住定住
	22	分譲地を作って人口増を図る。			○				移住定住
	23	若い人に地域活動に参加してもらおう。		○					まちづくり
	24	移住した人にも近所付き合いに最小限参加してもらおう。		○					まちづくり
	25	財産区など古いしきたりは考え直す。(維持管理が難しい)	○						財産区
	26	ふれあいセンターをお試し住宅の代わりに使えるようにする。(研修だけでなく)	○		○				移住定住、まちづくり
	27	ふれあいセンターを農業学校にしてはどうか。	○		○				農業振興、新規就農、移住定住
	28	空き家など、住む場所の確保。			○				移住定住
	29	空き家探しを地域がサポートする。			○				空き家対策
	30	空き家の利活用。			○				空き家対策
	31	空き家を活用しての移住には仲介者が必要。			○				空き家対策
	32	空き家情報が少ない、お金がかかる。			○				空き家対策
	33	美星に企業誘致。			○				雇用創出
	34	コアワーキングスペースをつくる。			○				雇用創出
	35	ネット関係の会社の誘致。			○				雇用創出
	36	上水道を引くのが高い。			○				水道
	37	水道加入金の減額及び水道料金を安くする。			○				水道
	38	光ファイバー網の整備。	○						生活環境整備
	39	働く場の確保。(企業の営農)			○				移住定住、新規就農、雇用創出
	40	働く場の確保。			○				雇用創出
	41	青空市を多目的にして働く場にする。			○				雇用創出
	42	星をメインにしたオートキャンプ場など検討する。(家族連れ呼び込む)			○				移住定住

